



平成28年9月15日発行

★ Topics ★

～海外の薬局事情について～



A letter from North America

いわき明星大学 櫻井 映子

薬学部が6年制になって、今年は11年目。薬剤師を取り巻く環境も変わりつつあります。厚生労働省は、今まで病院敷地内に薬局の設置を認めていませんでしたが、昨年、政府の規制改革会議から見直しを求められ、薬局経営の独立性確保を条件に敷地内の併設を認めることを明らかにしました。どのようなビジョンを描いているのか、海外の薬局事情について調べてみました。

病院内の薬局の設置状況

カナダトロント市のマウントサイナイ病院の正面玄関から入るとすぐ右に薬局が設置。写真1の中で窓に Rexall の文字が見えるガラスの向こうが薬局です。この薬局はかなりの広さがありました。



写真1 マウントサイナイ病院正面入り口

規制改革会議が描く理想のように時間が進行した場合には、究極的にはこのような形になることも、可能性として考えられますね。

ヨーロッパは、日本薬剤師会の基準薬局になるような薬局という形態をとっています。下の写真はスウェーデンでよく見かける薬局 (Apoteket: スウェーデン語で薬局) の写真2です。薬局内はサプリメント、OTC、化粧品などを置いています。



写真2 スウェーデンの薬局

2008年にアメリカのアトランタに行った時に、アトランタで薬局を見つけることができませんでした。食材を調達しようとスーパーマーケットに入ったところ、スーパーマーケットの中で、偶然薬局を見つけました。奥詰まった出入り口の近くにありました。



写真3 アトランタにあるスーパーマーケット内の薬局

アメリカの他の州ではワゴンにアスピリンが山積みになっているような、ドラッグストアをよく見かけていましたが、アトランタでは残念ながら筆者には、見つけられませんでした。

カナダでも薬局はアメリカと同じように、大きなスーパーマーケットでは、写真のような感じで薬局コーナーが併設されています。

スーパーやショッピングモールに入っている薬局以外は、写真ドラッグストアは24時間営業で、日本のコンビニエンスストアのような役割を持っているように感じました。

薬局は正面の入り口からかなり奥に配置されていて、入り口付近には、飲料、食品、本、おもちゃ、サングラスなども置かれています。薬局に近づくに従って、化粧品、サプリメント、OTCが並ぶようになっていました。



写真4 カナダの大きなショッピングセンター内の薬局



写真5 北米でよく見かけるドラッグストア

最後に・・・

調剤は、テクニシャン(北米ではテクニシャンの資格を持った人、または薬剤師がテクニシャンとして勤務している場合もある)が行っています。薬剤師は処方箋を受け付け、患者さんが持ってきた処方箋の監査(その患者の処方歴を一括管理している州のサーバーにアクセスしてチェックする、医師への疑義紹介等)、調剤済み薬剤監査、電話対応などがあり、薬剤師はほとんど休む間がないほど忙しい日常業務をこなしているようです。主な業務は、服薬指導 (medication review) のほか、日本の薬剤師にはない処方権 (Adaptation)、予防接種(injection service)だそうです。

薬剤師は必ず毎年登録する必要があり、5年に1回、登録されている薬剤師の中から、無作為に抽出して、薬剤師のスキルをチェックする審査が行われているという話を聞きました。選ばれた人は「ラッキーボーイ」と呼ばれるそうですが、常にスキルアップしながら仕事をしていけば、試験は合格するという事です。日本でも、もしかしたら、毎年の登録が義務付けられ、スキルアップしているかどうかの抜き打ち審査も、遠い将来には実施されるようになるのかもしれないね。

スチューデントシティも実施中!!!



今年度から、いわき市体験型経済教育施設「スチューデント・シティ」に協賛企業としていわき市薬剤師会が参加いたしました。

この事業は、市内の小学5年生3,000人を対象に施設内に再現した「街」の中に会営「みんなの薬局」を開局いたしました。説明要員として会営薬局の職員を派遣し、ボランティア薬剤師と共に「社会のしくみや経済の働き」や「薬局・薬剤師の仕事の内容」などを体験学習する児童をサポートして実施しております。

